

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



私たちは「互いに愛し合いなさい」という主の戒めを知っています。これは主が一度天に帰られ私たちのための場所を用意されて後、再び私たちのところに戻って来られる間に守るべき戒めです（ヨハネ十三章三十三節～十四章三節）。この一連の教えのなかで、イエスは「わたしを愛する人は、わたしのことば（戒め）を守ります」（十四章二十三節）、或いは「わたしを愛さない人はわたしのことばを守りません」（同二十四節）と言われました。この戒めが与えられたことによって、イエスを愛する人と、イエスを愛さない人（十五章六節）とに区別されることがわかります。この意味するところは、主の教えの文脈から見ても、「また来て、あなたがたをわたしのもてに迎え」（十四章三節）る準備と言えるでしょう。

イエスが私たちが愛したように、愛を実践しなければなりませんから、罪の性質上、今この戒めを完全に守ることはできません。しかし、イエスが再臨される時には、「キリストに似た者になる」ので完全に守ることができそうです。今は「愛から生まれた労苦」（一テサロニケ一章三節）で四苦八苦しつつ、イエスを愛することを追い続けるのです。感謝なことは、この戒めがあることによって、主がいつ来られても大丈夫なように準備ができるということです。ペテロは手紙のなかで、万物の終わりが近づいたので、「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい」と命じています（一ペテロ四章八節）。この戒めを本気で守らせるために、その実践として「互いにもてなし合いなさい」と命じます（同九節）。更に教会において秩序をもつてなすために、各々に与えられた賜物で仕え合うことを命じています（四章十節）。このようにすることで、私たちは益々イエスを愛するのです。

もうしばらく、愛の労苦は続きます。でも望みがあります。主がおいでくださるとい主に対する望みがあるので大丈夫です。

（JBBF国内宣教委員会委員長・井口拓志）

<一般会計>

【収入】

【支出】

献金	¥2,423,320	「かいたく」発行費	¥358,840
		カンファランス費	¥548,532
		委員会議費・交通費	¥0
		慶弔費	¥30,000
		開拓伝道支援費	¥1,286,000
		神学生支援費	¥540,000
		事務費	¥75,414
		その他	¥0
収入合計	¥2,423,320	支出合計	¥2,838,786
前年度繰越金	¥3,749,098	次年度繰越金	¥3,333,632
合計	¥6,172,418	合計	¥6,172,418

<開拓基金>

【収入】

【支出】

今年度献金	¥480,000	今年度貸付	¥0
今年度返済	¥260,000		
収入合計	¥740,000	支出合計	¥0
前年度繰越金	¥6,842,890	次年度繰越金	¥7,582,890
合計	¥7,582,890	合計	¥7,582,890

<震災支援基金>

【収入】

【支出】

今年度献金	¥4,851,164	被災者支援金	¥4,002,000
一般会計より	¥0	視察費用	¥165,744
		ボランティア支援	¥241,735
収入合計	¥4,851,164	支出合計	¥4,409,479
前年度繰越金	¥546,165	次年度繰越金	¥987,850
合計	¥5,397,329	合計	¥5,397,329

【開拓基金の貸付について】

国内宣教委員会では国内の開拓伝道所および独立教会を対象に、基金の貸付を行っています。基金のご利用にあたっては委員の井口までご連絡ください。

条件: 開拓伝道期に1回、独立時もしくは独立後に1回利用できる ※無利子、無担保。

返済方法: 返済期間は原則5年(事情によって短縮・延長可)
返済方法は「均等方式」または「スライド方式」

貸付金額: 1回150万円を上限

必要書類: JBBF開拓基金借入申込書、伝道所ないし所属教会において基金借入申込の決議を行った際の議事録の写し

2024年度 会計報告

2024年の国内宣教委員会の働きは、元日に起きた能登半島地震の被災教会、被災された諸教会の兄弟方のご家族・ご親族への支援の準備から始まりしました。前年までのコロナ対応基金を震災支援基金として引き継がせていただき、諸教会から献げられた献金を必要に応じて送らせていただきました。また、8月・9月の2回にわたって行われた災害援助グレイス(SEG)の働きにも基金を用いさせていただくことができました。開拓基金の運用や諸教会、伝道所への各種支援に加えて、今後も起きてくると思われる災害にもできる限りの対応をしていきたいと考えています。2025年も皆様のお祈りと尊いご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



献金振込先(郵便振込)
00140・2・654375
JBBF国内宣教委員会





就任のごあいさつ



野田聖書
バプテスト教会
小玉 昭成

主の御名を賛美いたします。今回国内宣教委員にご推薦いただき、総会にて承認をいただきましたので、愚かな者ですが、しっかりと役目を果たして行きたいと思えます。最初ご推薦の連絡をいただいた時は、全く予想していなかったもので、何も考えられませんでした。同時に私には難しいという考えが心の中を占めていました。まだ牧師に就任して1年経っていないこともあり、他の先生の方が適任なのではないかと考えました。しかし、委員の先生方の祈りのなかで私の名前が挙がったということは、もし主の御心ならば、受けるべきではないだろうか、との考えの元、祈りました。その結果「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし死ぬなら、豊かな実を結びます。自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。」

い。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることになります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます「ヨハネの福音書十二章二十四、二十六節と、「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい」ローマ人への手紙十二章十五節のお言葉が与えられ、私は全くの無力ではありますが、主がご入用ならば、主が助けてくださるはず、自らは主に明け渡し、この働きに加わって行こうと考えました。初めての働きです。十分にお役に立てるのかはまだ不安ですが、国内で素晴らしい伝道の働きをされている先生方をサポートする働きに少しでも関わって行けるのなら、そこから私自身が学ぶことも多くあると考えています。委員となったからには、主に委ねて先の委員の先生方に教えていただきつつ、どんどん前向きにお仕えして行こうと思います。どうか十分にお仕えしていただけるよう、お祈りいただき、感謝です。



私は、今年3月のJBBF年次総会において国内宣教委員会任期の3年を終え、退任させていただきました。これまで3年間、先輩の先生方に助けていただき、また諸教会の先生、兄弟の祈りに支えられながら奉仕させていただいたことを本当に感謝しております。

2022年当初、委員の先生からお声かけいただいた時は、私自身開拓伝道の経験はなく、足利教会での伝道も未熟なままで、とてもふさわしくないと思っておりました。その思いは今でも変わりません。しかし先輩の先生方が励ましてくださり、足利教会の兄弟にも対外的な働きの重荷にも目を向けて欲しいという思いから引き受けてさせていただきました。とくにコロナ禍の最中であり、外に目を向けることの重要性を感じておりました。

3年間書記、会計として奉仕させていただくことを通して、国内宣教支援の働きの重要性を再確認させられました。とくに、昨今の状況の中で開拓伝道の重要性とともに独立し



足利聖書
バプテスト教会
中川 克己

た後も地方の教会が宣教を継続・継承していけるための支援の重要性を再確認させていただく機会が与えられました。教会・伝道所訪問や教役者フェローシップを通して様々な教会の重荷、先生方の思いなど、貴重なお話もお伺いできたことは、私にとって本当に大きなチャレンジであり、また恵みでした。献身者フェローシップでは、献身者が起こされるために少しでも働きたいという白井先生の熱意にも励まされました。また、能登半島地震の支援にも会計として奉仕させていただく機会にも与りました。被災された方の被害、ショック、今後の心配など、お聞きする度に心が痛み、国内宣教委員会として何ができるのか委員の先生方とともに本当に考えさせられました。

まだ、やっと仕事が少ないわかってきたところで退任させていただきましたが、委員会のお働きの重要性を少しでも知ることができ、教会の兄弟とともに今後も祈り、重荷を持っていきたいです。

今後、ますます国内宣教委員会の働きの重要性は増していくと思います。私自身も今は支援を受けておりますが、今後も委員の先生方のお働きを覚え、祈って行きたいと思えます。今まで尊いお祈りとお交わりを本当にありがとうございました。



退任のごあいさつ

国内宣教委員会 支援金と条件一覧

国内宣教委員会では各地域の伝道所および諸教会の働きを支援するため、開拓基金の貸し出しのほか、以下の支援を行っています。支援についてのご相談は委員の井口までご連絡ください。



申請方法: 規定の申請書によりメール添付、郵送、FAX により送付

対象: 伝道所および経済的に厳しい状況にある独立教会

① 伝道者支援: 伝道者・牧師家族を対象

- ・国民健康保険補助 …月額 7,000 円 ※国民健康保険証の写しが必要です
- ・伝道者支援 …月額 5,000 円

② 伝道支援: 年に1回、限度額内で実費を支援

- ・講師交通費 (上限 20,000 円)
- ・講師宿泊費 (上限 5,000 円)
- ・トラクト作成費 (上限 10,000 円)

③ 伝道所(教会)支援: 伝道所・教会を対象

- ・定額支援 …月額 5,000 円

④ 伝道者医療費補助: 伝道者・牧師家族を対象

※医療機関の領収書の写しが必要です

- (A) 通常の医療費に関わる支援 ※年齢制限なし(18歳未満の未成年のお子さまも可)
…上限 5,000 円(年2回まで)、単発の医療費を補助
(風邪をひいて内科を受診した、足首を捻挫したため整形外科を受診した等)

- (B) 定期通院などの継続支援 ※60歳以上が対象
…月額上限 4,000円(3ヵ月ごとにまとめて送金)
(長期にわたる通院や手術等のため、継続検査が必要な医療)

- (C) 人間ドック補助
…上限 20,000 円(年に1回)



新規スタート!



イエス・キリストの恩寵の中で

あなたは、わたしに従いなさい。

母教会の牧師先生からいただいた手書きの地図の幕張駅に到着。線路沿いの細い道を歩いて、踏切にまで来ました。次々に電車が行き交い、踏切が上がるはずですが、それらしい建物が見えないのです。踏切が上がり、歩いて行くと、魚屋と鮎屋さんがありました。鮎屋さんに「すみません。聖書バプテスト神学校に行きたいんですが」と尋ねました。「大きな松があるべえ。その教会で聞きな」。千葉の方言のようです。車窓から松の木に隠れて、白い教会がすーっと見えたようなのを思い出しました。少し歩いた右手に大きな白い教会堂がありました。地図とおりです。でも「神学校はどこに?」。教会堂の扉が開いていました。喉に声が詰まったような感じで、「ごめんださい」。2階から足音がして、年配の男性が広い階段を降りてくれました。見覚えのある顔です。京都教会に來られたことのある牧師先生でした。「やあ兄弟、やっと来たね!」と言われ、私は緊張しました。「京都教会の上田晃です。神学校入学のため参りました。校舎が見つからないので、お尋ねにきました」。

教会堂に間借りの中学校

「ここが神学校だよ」。私は言葉を失い「?」。「君の部屋は会堂の階段を下りた半地下の左側。3年生2人との相部屋。君は3段ベッドの3段目。落ちないよう気を付けなさい。夕方には彼らも戻ってくるから、それまで休みなさい」と言われ、旅の疲れがどつと出た感じがした。当時、日本バプテスト聖書神学校は、幕張バイブル・バプテスト教会内に間借りしていることを知りました。どうりで校舎が見あたらないはずです。夕刻ごろ、人の声がして、神学生が戻って來られたようでした。その日の夕食は、いただいたはずですが、覚えていません。桜が咲き始めるころでした。



幕張校舎(教会)

【お断り】以下、ちよつと堅い内容になりますが、J B B C初期の歴史のひとコマを切り取り、記しています。日

なることを確信しております。

(私の時代は3年課程でしたが、後に4年課程になったので、教師の末席を汚すようなものではありませんが、4年課程を取得するために再入学し、三澤隆男師、足立茂師より薫陶を受け、数年がかりで4年課程を修了させていただきました。大きな霊的、知的財産を賜ったと感謝しています。あのときは岡崎教会の牧師であり、国内宣教師のときでした。いのちは主の御手の中にあり、お委ねしておりますが、しばらくすれば、私自身も憐れみをいただいて、天の御国でイエス様と教師方にお会いする日が近いかと思えます。なぜなら、私は5期生でしたが、1期生であった教師の先生方と私は同世代だからです。心はワクワクです。今日に至るまでの神学校の教師方に感謝します。また、卒業生諸兄姉方が主に大いに用いられますよう祈っております。主イエス・キリストが聖霊によって神学校を守り、献身者を各地の教会から盛んに送り出してくださるよう祈ります。)

課外授業

堅い話にはなりましたが、加えて、母教会、奉仕教会の牧師先生ご夫妻から牧会実践のノウハウを垣間見ることが多くありました。それは愛でした。家庭集会に連れていただいたことも何回かありました。証しする機会をくださいました。どこの家庭集会でも同じ

本人年配教師3名、青年教師3名、来日されて数年を経られた宣教師3名。いずれの先生方も今は天の御国に凱旋されました。書きながら今、お会いしたい先生方ばかりです。実名で記すことをご容赦ください。

入学試験と入学許可

1957年3月、入学受験者は男子3名、女子2名の計5名でした。「えっ!こんなに少ないの!」。気になりました。入学手続きは牧師先生の推薦状、履歴書、最終学年の成績証明書による審査、救いの証し、献身召命の証し、試験内容は聖書の基礎知識問題と簡単な論文、それに英語が出題されたと記憶しています。試験の合格通知は教会に送られることになり、幕張教会が所属教会になったので、幕張教会に通知があり、入学が決まりました。

私が入学したときは、3期生が杉浦神学生、中野神学生、紅林女子神学生の3名。4期生は丸山神学生、竹原神学生、田嶋神学生の3名。そのうちお二人は通学しておられました。私たち5期生は能神学生、宮原神学生、上田神学生、大熊女子神学生、足立女子聴講神学生の5名でした。ご年配の日本人教師は3名でした。驚いたのは、神学校を卒業されたばかりの1期生の青年先生方が3名教師になっておられたことです。そのほか、まだ日本語がおぼつかない宣教師の教師が3名おられ

ような証しをしていたので、「兄弟、壊れた蓄音機盤のような証しをするのはやめなさい!」と注意されました。壊れた蓄音機盤、今の方は、おわかりいただけるでしょうか。

神学校に入学した後、高ぶりの霊の支配を受ける経験もしました。「私は農村伝道をしてきた!福音書は学んできた!それくらいのことば学ばなくても分かってる!」。私の心のなかには、このような高慢な思いがあったのです。怖いことです。主によって碎かれるのに3ヵ月の時を要しました。学びの遠回りです。神学校に來るためには「心貧しくなければ」学べないことを悟りました。

落ち込むこともありましたが、牧師夫人が「上田さん。イエス様はご旅行中?エレミヤ記三三章三節に「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた」とあるでしょ。神の愛と恵みは、君の感情の起伏に関係なく、変わらないの。感情の起伏で神の愛を測っちゃダメ!」。ピシャッと一言。私の気質はどちらかと言えば、見かけとは違う鬱気質です。その日から主は私の気分信仰を解放してくださいました。

ある時、祈っていたのです。宣教師が一言「神の耳はよく聞こえる耳。もう少し小さい声で祈りなさい」。私は周りの空気が読めないところがあるのです。

ました。当時は3学期制で、4月始まり。3月卒業の3年制でした。青年教師の方は、望月師(清水教会)基礎神学。斎藤師(足利教会)福音書。上山師(東京教会)教会音楽、楽典、ピアノ指導。年配の先生は、天利師(幕張教会)伝道実践。河野師(千葉教会)聖書地理と記憶しています。宣教師の先生から、たどたどしい日本語で何かを教えていただきました。ラージャス宣教師(静岡教会)が組織神学の授業のために用意してくださったガリ版印刷の手作りテキストに感激しました。聞くところによると、3期生の女子学生、1期生の女子献身者が毎週ガリ版印刷をされていたと聞いて感動していました。バンクルフトの組織神学の日本語翻訳は、足立紀夫師(静岡教会)が協力されたと聞いておりました。アーノルド宣教師(千葉教会)モーセ五書。旧約聖書の学びは新約聖書を理解する大きな助けとなりました。天利師説教学、牧会学。河野師、牧会学。吉崎師、福音書、新約概観。吉崎夫人、表現法、英会話。上山師、聖書解釈学と教会史。改めて記させていただきましたが、初期のころの恩師であられた先生方は、いずれの御方も、すでに天の御国に召されておられ、大きな慰めはありますが、複雑な気持ちでもあります。言葉では、表すことができないくい気持ちですが、天の御国に召された諸師に対し、感謝の思いを主なるキリス

思いがけないレクリエーション

あの頃、房総半島の主力道路、国道14号線の幕張あたりは、際までが海でした。満潮時は道路際まで波しぶきをかぶる日もありました。ところが干潮時は、500メートルぐらい沖まで、潮が引いて砂浜になるのです。幕張教会時代、月曜日の午後、奉仕教会の各所から神学生が帰校してくると、干潮の時、うちそろって、幕張海岸に潮干狩りに行きました。アサリ、ハマグリにマテ貝など、幾つもの網袋が一杯になりました。砂出しをした後、翌日火曜日の夕刻、「おお!」と言いなながら網で貝を焼きました。焼いた貝たちが夜の食卓の主役になりました。美味しかった。炭火の香り、あの味、あの海の香り、覚えています。余談ですが、マテ貝は潜んでいる砂のなかに小さな穴を開けており、その穴を探して、穴に塩を入れると飛び出すのです。ハマグリは潜んでいる砂がふくら膨らんでいるのです。アサリは、やみくもに砂を掘ると必ず幾つかが手の中に入ります。今はその海は、埋め立てられ、住宅地、高層ビル、ホテルなどに変貌してしまいました。



フェロシップ草創期の先生方と1～3期生



千葉市松波町に神学校校舎建設始まる

1年生の夏ごろ、神学校校舎建設の話が持ち上がり、千葉市松波町に建つことが決まりました。土地の取得、建設資材は、東京にあった米軍基地ワシントンハイツの建物が払い下げられ、神学校校舎として移築されることになったのです。神学生が動員され、建物の一部とり壊しや、資材をトラックに運び入れる作業などが行われました。神学校授業はしばらくの間、休校状態が続きました。やがて運び込まれた資材で、松波校舎の工事が始まったのです。工事は6か月ほどかかったと記憶しているのですが、2年生の1学期から、松波校舎に移転したと記憶しています。中央に教室、食堂、両側に男子寮、チャペルと女子寮併設。正面左に舎監住居の4棟が建設されたのです。学生寮は、日本では珍しいかまぼこ兵舎でした。記憶しているのは、寒かったこと、暑かったことです。後輩の内藤先生も、このかまぼこ兵舎に住まわれ、勉強をされました。でも嬉しかった。感動がありました。6期生以降は松波校舎で入学されたと記憶しております。資金は、ほとんどアメリカのB B Fからの献金で賄われたと聞いておりました。感謝、感謝です。あの頃、J B B Fは8教会、6伝道所でした。私の記憶では、1期生から5期生で19名の神学生と3人の聴講生が学んでいたのです。私たちは、その後、6

松波校舎の建設途中のエピソード

松波校舎の建設中、私は未完成状態の校舎を守る立場の依頼を受けて、校舎で寝泊まりをしておりました。ある満月の夜の夜、女子寮に充てられるかまぼこ兵舎の方で異様な音がするので、懐中電灯をもって現場に行ってみると、なんと風呂桶が無くなっていました。泥棒が来て、風呂桶を盗み運び出すところに私は出くわしたのです。複数人の男性が風呂桶を担いで走り出しました。裏の溝を超えて、風呂桶がススキ原の中を担がれて走っていくのです。私は「ドロボー！ ドロボー！」と大声を張り上げて、追いかけたのです。すると風呂桶が止まり、数人の男性が逃げていきました。ススキ原の中に置かれた風呂桶を月明かりが照らしていました。それは何とも幻想的な風景でした。その日、私は風呂桶が再び盗まれないように、朝まで見守りますと、彼は大笑いをしながら、そ



松波校舎での勉強風景



建設中の松波校舎

期生、7期生と同時期を過ごすことになります。当時を思い返すとき、教会間の助け合い、伝道所支援などがありました。京都教会に静岡教会、熊谷教会、幕張教会から先生方や教会員の方々が一部砂利道の国道1号線を自動車で走って、伝道応援に駆けつけてくださいました。聖霊によって霊に燃え、互いに助け合い、愛し合い、協力し合う牧師関係、教会関係がありました。夏季キャンプでは、神学生が輝いて司会や証しや奨励をしておられました。そのような彼らの姿を見て、「早く神学校に入学したい！」と心が燃やされた日のことを思い出しました。霊的に引き付けられる魅力がありました。

2年生の秋、B宣教師が開拓伝道を始められた名古屋伝道所から、副牧師の招聘があり、主の導きと信じて、受



教師と学生たち(1959年 秋)

の桶を再びススキ原から女子寮の所定の位置に運び、据えてくださったのです。主の守りを感謝します。

吉田欣子姉と結婚

私は2年生のクリスマス休校時に京都に戻り、婚約していた吉田欣子姉と結婚しました。3学期が始まる前日でした。新婚旅行は京都から千葉松波校舎までの夜汽車でした。二人とも蒸気機関車の煤(すす)で顔が薄黒く汚れていて、指をさして笑い合いました。「結婚おめでとう！」と教師方、学生たちが祝ってくださいました。神学校始まって以来の学生結婚でした。妻は女子寮、私は男子寮で夫婦別居の新婚生活のスタートでした。

3か月後、教師会で千葉教会のガレージの二階部屋を用意してくださいました。一階は校長先生の勉強部屋でし

諾しました。授業期間中でしたが、天幕伝道の説教者として名古屋伝道所から招かれ、土、日、月と授業の無い日を選んで奉仕させていただきました。月曜日の夜行列車で帰校しました。神学校に着くと、学友が「兄弟大丈夫だった？名古屋が大変だよ。台風が名古屋を直撃したんだよ」と言いました。私はと



完成した松波校舎(1959年6月完成)
(校舎の左右に見えるのが、学生寮となったかまぼこ兵舎)

つさに天幕伝道のテントがどうなったか、信仰決心されたあの方、この方は大丈夫かと思いました。あの伊勢湾台風だったのです。建設中の宣教師館が風に吹き飛ばされて、崖の下に落下したことを後になって聞かされ、信じられない思いでした。

たので緊張しました。数か月後、千葉教会の牧師館が空いたため、ご厚意によりガレージの2階部屋から牧師館に住まいを移しました。感謝しました。3年生の2月、長女が生まれました。

名古屋伝道へ

約2か月後の4月1日、神学校を卒業し、名古屋教会に着任しました。住まいは二畳と六畳二部屋のアパートが用意されていました。感謝。最初の礼拝説教。詩篇十六篇から主の御復活の約束についてメッセージをしました。時間が長く感じました。しかし、実際は15分でした。いかに話すことが難しいかを知らされました。集会場所は、東山動物園の近くで、小さなアトリエ教室を時間制で借り受けてのスタートでした。日曜日の午前4時間、夜2時間。水曜日の夜2時間。牧師住居用のアパートの六畳部屋が交わりの定席でした。大変でしたが、懐かしい思い出です。主に感謝。日曜日のおもてなしは定番メニューがありました。一人の夜学生クリスチャンが給食のパン切れを毎日のように牧師の家に持ってきてくださったので、パンには不自由しませんでした。そのパンを妻はかりんとう風にして油で揚げ、それが定番のおやつとなりました。時には、鳥屋さんから鶏の手羽先をたくさんいただいたいてきて(当時無料)、それに味付けし、



最初の集会場所となったアトリエ教室前で